

# いわき農林水ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)

9月号 発行 平成23年10月3日



## 〈東日本大震災関連〉

### 「農林水産の復興に関する意見交換会」を開催

8月29日(月)、県いわき合同庁舎において、福島県農林水産業の復興に関する意見交換会を開催しました。

この意見交換会は、8月11日に策定された福島県復興ビジョンに基づき復旧・復興を実現するための福島県復興計画のうち、農林水産部門の計画策定に当たって、いわき地方の農林水産業代表者や関係機関など約60名が出席し、復興に対する意見や要望などを反映させることが目的です。

始めに、戸井田いわき農林事務所長がいさつを行い、引き続き、県がビジョンの基本理念や内容、施策案のほか、重点プロジェクトなどについて説明を行いました。



(「福島県農林水産業の復興に関する意見交換会」の様子)

意見交換会では、多くの方より農地、森林などの放射性物質の早期除染についての強い要望や、未来を担う子どもたちの安全・安心の確保は将来の担い手育成に繋がること、現生産者への支援が重要であるなどの意見や要望が寄せられるとともに、農業者代表からは、「苦しくとも空元気でがんばって生きなければ担い手は後に続かない。」などの意見も述べられ、復興計画策定に当たって貴重な意見を得ることができました。

県では、これらの意見交換会を経て12月末には復興計画(第1次)を示すこととしています。



### 「原子力災害個別相談会」が開催されました。

8月30日(火)、31日(水)の2日間、いわき市労働福祉会館において、東京電力(株)主催による「原子力損害にかかる仮払い補償金に関する個別相談会」が開催されました。

この相談会は、福島第一、第二原子力発電所の事故により損害を受けた農業者等のうちJA等の団体を通じて補償金を請求している方や、警戒区域で農業に従事していた方を除く方を対象として、東京電力(株)が行っている原子力損害賠償の仕組みや仮払い補償金の具体的な請求手続きなどの相談を目的としています。



(「原子力損害にかかる仮払い補償金に関する個別相談会」の様子)

相談には、2日間で農業者個人や法人代表者など38組40名の方が訪れ、請求書の記載方法に加え、請求に必要な書類の確認や自分のケースが風評被害による損害として認められるかなど、さまざまな相談が寄せられました。なかには、原発事故の影響で収入の道が絶たれたため、早急な支払いを求める切実な相談もありました。

現在、東京電力(株)では、10月からの本補償に向け、職員の増員や「東北補償相談センター」(仙台市)を設置するなど、補償相談窓口の体制強化を図っています。いわき地区においても、以前から相談窓口として「いわき補償相談センター」を市内(平十五町目 いわき第一日本興亜ビル2F 電話0246-22-8841)に構えていましたが、9月12日からは、いわき市文化センターにも相談窓口を開設し、今後、新たな事務所の増設も予定しています。(9月28日現在)



## 「津波による塩害箇所 の災害査定」が実施されました。

9月7日(水)～9日(金)、いわき市平下大越から錦町の範囲において、災害査定が行われました。

今回は、津波により海水が湛水した、除塩事業が査定対象です。

本来であれば査定後でなければ水稻の作付けはできませんが、被害発生から作付けまで短期間での対応が必要であり、国との協議に基づき緊急性が認められたことから、既に応急工事を実施しています。

稲の作付けに遅れはありましたが、現在は稲の穂先が垂れ、ようやく実りの秋を迎えつつあります。

査定箇所の中には応急工事の実施箇所も含まれ、対応の結果良好な生育を見せている箇所があります。今後さらに査定を受ける箇所もあり、計画的に速やかな復旧を進めていくこととしています。



(震災直後の津波により湛水した水田)  
(左手奥が財団法人磐城済世会 舞子浜病院：平下大越地内)



(同地区の除塩後の稲の生育状況)  
(右手奥が同上病院：平下大越地内)

### 農地、農業用施設の査定結果

区 分	箇 所	査 定 額(千円)
農 地	11	43,654
農 業 用 施 設	15	54,906
集落排水施設	2	70,408
合 計	28	168,968

### 治山、林道関係の査定結果

区 分	箇 所	査 定 額(千円)
治 山 施 設	2	246,579
緊急治山施設	2	309,500
林 道	8	112,655
合 計	12	668,734

※9月26日現在の災害査定の結果



## 「放射能に関する研修会」が開催されました。

9月11日(日)、いわき市自由ヶ丘のJAいわき市本店において、「放射能に関する研修会」が開催されました。

この研修会は、農業者の放射能に対する知識を深め、今後の営農に役立てていただくことを目的として実施されました。

これまで農業者向けの研修会は開催されていないこともあって、休日にもかかわらず組合員約250名が参加しました。



(「放射線と農業研修会」の様子)

研修会では、農業総合センターの吉岡生産環境部長が「放射性物質の現状と対策研究に係る最新知見について」、いわき農林事務所の遠藤地域農業推進課長が「震災・放射線対策と今後の地域農業の取組み」と題して、試験研究成果や取組み内容について講演を行いました。

参加者からは、研修終了間際まで数多くの質問等が寄せられ、放射線に対する関心の高さや、不安を払拭しようとする意識が感じられ、実りの多い研修会となりました。

今後も、いわき農林事務所ではJAほかと協力して県の取り組み内容や放射能・放射性物質に対する正しい知識について、農業者への周知を図っていくこととしています。





## 「実りの季節！おいしい秋を満喫しよう!!」キャンペーンを実施

台風15号が過ぎ去った9月22日(木)、23日(金)の2日間、マルトショッピングセンター草野店において「がんばろう ふくしま！」運動の一環として、「実りの季節！おいしい秋を満喫しよう!!」キャンペーンを実施しました。

キャンペーンは、22日が16時から、23日は14時から、約2時間、くじ引きの抽選により各日130個のサンシャインいわき梨をプレゼントしたほか、モニタリング結果付のチラシを配布し、県産農産物の安全性をPRしました。

1等の大きいナシはもちろんのこと、2等の中程度のナシが当たる度に歓声が上がリ、両日とも、参加したみなさまに喜んでもらいました。

出荷制限等に係る暫定規制値を超えていない県産農産物に対しても消費者の信頼が完全に回復しておらず、県産農産物の消費が停滞している現状にあります。子ども連れの主婦の参加も多数あり、「積極的に県産農産物を買っている」「農産物を応援している」「安全である数値を表示したらどうか」といった声が聞かれました。



(キャンペーンのくじ引きの様子)

新米や多くの農産物が収穫される秋を迎え、県では、今後もモニタリング調査により、安全・安心な農産物を提供する取組みを行っていくこととしています。



(当たりが出ました。)

## 〈一般情報〉



「いわき高箸」が間伐材利用コンクールで受賞しました。

8月20日(土)、21日(日)の2日間、東京都新宿御苑において『GTF AWARDS2011 平成23年度 間伐・間伐材利用コンクール』(林業関係17団体で構成する間伐推進中央協議会及び環境問題に取り組むグレーター・トウキョー・フェスティバル実行委員会の共催)が開催され、同コンクールに出品したいわき市川部町の、間伐材を使った割箸製造業 (株)磐城高箸の高橋代表取締役が「暮らしに役立つ間伐材利用」部門で3位となる間伐推進中央協議会会長賞を受賞されました。

これは、東日本大震災により大きな地震や津波、原子力発電所事故などで被害を受けた岩手、宮城、福島県の3県の復興に寄与したいとの思いから、被災県の間伐材である、福島磐城杉・宮城栗駒杉・岩手気仙杉を使った割箸をセットにした「三県復興希望のかけ箸」として、出品した作品がコンクールで入賞したものです。

この割箸の材料となる福島磐城杉は、いわき市田人町で伐採された間伐材でも「イヌ杉(構造材には利用しにくい材料)」と呼ばれる黒芯の丸太材(黒芯部を除いて使用する。)から斧を使って4つ割後、柾目(まさめ)が見える板材に加工し、さらに3日間自然乾燥後、1~3日間温風乾燥によりつや出しの上、高級割箸に用いられる利休箸(中央がやや太い形状の箸)に加工されます。

高橋氏は、「工場は地震でできた断層にも近く、震災の影響も大きかったが、受賞を機に震災からの復興と地域林業の振興につなげていきたい。」と今後の抱負を述べていました。



(「受賞楯(左)と高級割箸「三県復興希望の箸」を持つ磐城高箸の高橋代表取締役)



(割箸の原料となる磐城杉(通称イヌ杉))



## 「サンシャインいわき梨」の 選果が開始されました。

8月22日(月)、いわき市平赤井のJAいわき市梨選果場において、操業開始式が行われました。

東日本大震災による施設や果樹など、いわき梨への直接的な被害はありませんでした。しかし、原発事故の放射性物質の放出により、水稲の作付け制限や農作物の出荷制限、風評被害による販売不振など、生産・販売環境について大変厳しい状況下での梨の出荷開始となりました。

今年の梨は、例年よりやや小玉で一部に病害虫の被害が見られたものの、糖度や形状など、品質は例年並のできばえとなっています。

また、安全確保のため緊急時モニタリング検査を実施しており、放射性物質は検出されませんでした。



(「サンシャインいわき梨」の試食の様子)

開始式では、各関係機関からの祝辞に引き続き、「サンシャインいわき梨」を消費者に安心して購入していただけることを関係者が切に願い、一同の拍手の中、「幸水」を積んだトラックを市場に向け送り出しました。



(「サンシャインいわき梨」の出荷の様子)

みなさん、ぜひ、安全で美味しい「サンシャインいわき梨」をご賞味ください。



## 「カツオ」が小名浜に初水揚げ されました。

8月29日(月)、小名浜魚市場において、東日本大震災以降で初めてカツオが水揚げされました。

水揚げは、例年に比べ約4ヶ月も遅い時期となりましたが、この日を待ち焦がれていた多くの関係者が集まり、市場は久しぶりに活気付きました。

同魚市場では、早期に水揚げ再開に向けた復旧工事を行うとともに、6月中旬には受け入れ体制が整備され、7月1日に県立いわき海星高等学校の実習船(福島丸)がマグロを水揚げして以来、今回のカツオの水揚げは2回目となります。

沖合を回遊する魚であるカツオは、放射性物質検査では暫定規制値を大幅に下回っているか、又は検出限界未満でしたが、福島の水揚げというだけで風評の影響により厳しい評価がなされることから、水揚げまでには至りませんでした。

しかし、関係者の努力により、ようやく今回の水揚げとなったもので、水揚げされたカツオは県内外に出荷され、一部では取引価格の低迷もありましたが、これを契機に本県水揚げ魚類の大幅な取引の再開が待たれています。



小名浜地区では昨年と同じ日、「第2回いわきのカツオ祭り」が開催され、多くの消費者の方においしいカツオを味わっていただきました。一日でも早く新鮮ないわきの魚を提供できるよう関係者一同心より願っているところです。





## 「木工工作コンクール」の審査会が開催されました。

9月3日(土)、4日(日)の2日間、ヨークベニマル谷川瀬店において、「第17回いわき市児童生徒木工工作コンクール」の作品展示会が開催されました。

この展示会は、木の良さを再発見するとともに、児童生徒の造形能力の発達を目的として、福島県木材青壮年協会いわき支部が主催し、磐城流域いわき地区林業活性化センターの共催、いわき市の後援で行われました。

コンクールの参加は、東日本大震災の影響により例年よりも少ない状況でしたが、市内31小学校より804点が応募されました。

展示会に先立ち、審査が行われ、工作技術やデザインに優れ、木の持つ質感が活かされた、いわき市立上遠野小学校3年生 栗須日菜さんの作品「ピアノ」と、いわき市立中央台東小学校5年生 斎藤謙太さんの作品「トリケラトプス」が、いわき農林事務所長賞に選ばれました。



(いわき農林事務所長賞  
栗須日菜さんの作品「ピアノ」)



(いわき農林事務所長賞  
斎藤謙太さんの作品「トリケラトプス」)

展示会では、286点の作品が展示され、親子連れや買い物客などが自然木の風合いを取り入れた作品や、大人顔負けの作品に見入っていました。

このコンクールの優秀作品は、福島県児童生徒木工工作コンクールに推薦され、10月21日(金)に開催される審査会に出品されます。

なお、コンクール入賞作品は10月22日(土)に郡山市の県林業研究センターで開催される福島県林業祭においても展示されますので、ぜひご覧ください。



## 「農業ふれあい講座」が開催されました。

9月10日(土)、いわき市草野公民館において、いわき農業青年クラブ連絡協議会主催による「農業ふれあい講座 開校式」が開催されました。

いわき農業青年クラブ連絡協議会では、野菜づくりを通じて市民に農業への関心と理解を深めていただくため、一般消費者を対象とした「農業ふれあい講座」を開催しており、今年度は、4月から計5回開催する予定でしたが、東日本大震災の影響により延期され、この時期の開催となりました。

今回の講座は、いわき農林事務所の農業普及指導員が講師を務め、いわき地域の農業や放射線の現状、農作業及び今後の家庭菜園での注意事項について講義後、質疑応答を行いました。



(「農業ふれあい講座」の様子)

今回、参加者は少なかったものの講師やクラブ会員に対して積極的に質問するなど、そ

それぞれ興味のある項目について見識を深め、参加者とクラブ会員とが共にふれあう講座となりました。

今後は、11月と1月に開催する予定としています。



## 水稲「天のつぶ」現地検討会を開催

9月15日(木)、いわき市四倉町において、いわき市内の水稲生産者、米穀業者及び関係機関など約30名の参加により、いわき地方「天のつぶ」生産現地検討会を開催しました。

検討会では、いわき農林事務所から今年度の気象と管内生育概況、「天のつぶ」の品種特性と展示ほ場での生育概況を説明後、熟期や草姿、耐病性及び耐倒伏性などについて、現地検討を行いました。

「天のつぶ」は、本県オリジナル新品種で、本年度は、県内約60haの水田で作付けされており、このうちいわき地方では約1.5haが作付けされています。

また、将来は「コンヒカリ」、「ひとめぼれ」と並ぶ本県稲作を担う主力品種に育てて、オリジナル性を活かした県産米の有利販売につなげていく予定です。

参加者は、「天のつぶ」の品種特性について活発な意見交換を行い、来年度の作付けの参考にしていたようでした。併せて、熟期の遅い水稲品種「あきだわら」や稲WCS(ホルクroppサイレージ:稲をビニールなどで密封し発酵させた粗飼料)ほ場における収穫などについても検討を行い、参加者にとっては農業経営の参考となる検討会となりました。

今後は、収穫後に「天のつぶ」の食味検討を含めた今年度の成績検討会を予定しています。



(「天のつぶ」現地検討会の様子)



## 「大野第一地区」が竣工しました。

9月21日(水)、いわき市四倉町地内において、「経営体育成基盤整備事業 大野第一地区竣工式」が開催されました。

式典では、いわき農林事務所 戸井田所長、いわき市 渡辺市長、千軒平溜池土地改良区 鈴木理事長らにより、記念碑「玉造川の里」(揮毫:渡辺いわき市長)の除幕が行われ、工事の完成を祝しました。

その後、祝賀会では、知事祝辞に引き続き、星農村整備部長より工事経過が報告され、引き続き、換地委員及び工事委員に対して知事感謝状が贈呈されました。



(祝賀会で知事祝辞を述べる戸井田農林事務所長)

大野第一地区は、総事業費5億6千200万円を投じて、平成16~22年度までの7年の工期で、区画整理A=37ha、用水路L=6,829m、排水路L=7,497m、農道L=4,738mの整備を行いました。

今後は、整備された大区画ほ場により、農業担い手への農地利用集積が図られるとともに、大型機械の導入による水稲栽培や大豆の集団転作のほか、施設園芸、集落営農など、先進的な取組みの拡大が期待されています。



(竣工を迎えた「大野第一地区」の全景)





○ ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new.fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
  - (1)モニタリング情報検索
  - (2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」及び「原発事故」からの復興のために！

**がんばっぺ“ふくしま!!”がんばっぺよ“いわき!!”**



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。  
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課  
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地  
(県いわき合同庁舎 3階)  
TEL (0246)24-6152 FAX (0246)24-6196  
U R L <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>  
E-Mail [iwaki.nourin@pref.fukushima.jp](mailto:iwaki.nourin@pref.fukushima.jp)

